ISSN 0385—7506 vol. 25, No.2 2000

東北大学附属図書館報

木這子

BULLETIN OF THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

—木這子（きぼこ）とは東北地方の方言で，こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）—

目　次

○シリーズ　貴重図書19—東北大学附属図書館所蔵　『大和巡画日記』について……1
○平成12年度企画展の開催……9
○貴重資料特別企画展を開催……10
○第55回東北地区大学図書館協議会総会……10
○平成11年度参考図書購入報告……10
○平成11年度特別図書購入報告……11
○会　議……13
○編集後記……14

シリーズ　貴重図書19

東北大学附属図書館所蔵『大和巡画日記』について

東北大学大学院文学研究科助教授　長　岡　龍　作

1．本書の構成と美術史上の意義
2．谷文晁の大和巡りと仏像
3．森川竹窓の大和巡りと仏像
4．今後の課題 — 江戸から明治への仏像の転換

1．本書の構成と美術史上の意義

東北大学附属図書館所蔵『大和巡画日記』については，すでに長岡由美子氏によって翻刻・解題がなされている（注1）。まず，それによって，本書の概要について紹介する。本書は，上・中・下の三巻よりなり，それぞれは寸法，紙質が同一であることから，同時期に筆写されたものと推定される。紙は，表紙を含め薄茶色の中厚手の和紙であるが，特に原本を敷き写したと見られる挿図部分にのみ薄手の紙を用いている。本書下巻の巻末には，「天保十二年辛丑八月写　画禽江／書全海」とあり，天保十二年（1841）に，画を西村禽江，文を全海によって筆写され一書となされたものであることがわか

る。また，各巻の見返しにはそれぞれ別紙が貼られ，次のように記載される。

（上巻）　「文晁氏　大和巡画日記　寛政乙卯上　原本無題号今案可如此題／黒海房蔵／大和巡覧画日記　文晁氏／上」

（中巻）　「間氏高嶋／森川画日記　文化六年完／　黒海房蔵」

（下巻）　「大和巡覧画日記　文晁氏　下」

これらは筆写時の書き付けであり，その時点で各巻の原本の書名は失われているようであるが，すでに同氏によって指摘されているとおり，本書の上・下巻は，谷文晁（1763－1840）の筆になる寛政八年（1796）の画日記の写本であり，また，中巻は，現在天理図書館に所蔵される森川竹窓（1763－1830）筆『大和日記』（原本は，文化六年〈1809〉）と内容を同一にする写本である。ここに用いている本書の書名『大和巡画日記』は原本のものではないが，現在はこれが通用している。

本書は，特に上・下巻が江戸時代後期の大家，谷文晁の筆になる画日記の写しであり，また他にわずかに抄出本が伝わるだけ（注２）でもあるので，美術史的に貴重な資料であることは疑いない。従来本書は，松平定信（1758－1829）の集古事業の一環として，その命を負った文晁がおこなった大和地方への資料採訪の記録という観点から評価されてきた。すなわち，寛政十二年（1800）から刊行された『集古十種』，及び寛政末年から文化年間半ばまでの成立と考えられる『古画類聚』（東京国立博物館蔵）として結実する，総合的な「文化財」調査事業の予備調査としての意義であり，そのため両書に載る作品と本書のそれとの異同などが検証されてきた（注３）。

また，近世の大和巡りの行路を証する記録としても利用され，興味深い分析も試みられている。それによれば，十七世紀以降，大和巡りの行路は大和盆地の東側を通る西国巡礼道と西側の矢田丘陵沿いを通る大和巡り道の二通りが定着しており，訪れる寺院も定番化している。文晁の大和巡りも，この二道沿いの定番寺院を対象におこなわれているという（注４）。

このように本書は，江戸時代後期の文化的状況を垣間見るに好個な内容を備えているが，寄稿者の専門である仏像研究の立場から見ても，興味深い点がある。無論，この時期の南都の寺院の様子を伝えるという記録性の点からも重要な資料とすることができるのだが，それに留まらず，本書に見られる「仏像を記録する」行為自体が注目されるからである。『集古十種』において，「仏像」は掲載品目の中にはなく，それはいわば仏像が「古物」カテゴリーの中には入っていなかったことを示している。その事業の中にあって，仏像がどう扱われたかを考えさせる材料に本書はなりうる。いいかえれば，明治時代に文化財としての「仏像」が成立する前夜，江戸時代後期に仏像とはどのようなものであったかを考えさせる材料になるのである。以下に若干の考察を試みたい。

２．谷文晁の大和巡りと仏像

谷文晁の大和巡りは，文晁の展観目録である『過眼録』（注５）等によって寛政八年の九月から十月にかけてのことと知られている（注６）。従って，本書上・下巻の原本も，その折に記された画日記であることがわかる。

さて，『大和巡画日記』は，九月三日の日付から始まる。『過眼録』を参照すると，文晁は，奈良の諸寺院を訪れたあと，不退寺から唐招提寺・薬師寺等を経て大和巡り道を南下し，当麻寺，信貴山，法隆寺へと至るという行路を辿ったようであるが，この部分は『大和巡画日記』に記載はなく，むしろ，十七日条に「発南都」とあるまでは，ずっと奈良に滞在していたように見える。そして，以下，西国巡礼道を南下しながら，帯解，櫟本，柿本寺，石上布留社，内

山永久寺，柳本，三輪社，長谷寺，室生寺，多武峰，岡寺，壺阪寺，吉野，越部，栄山寺と正しくこの道沿いの寺々を巡っている。『過眼録』を参照すれば，以後，高野から熊野へ向かったように推定される。これらの訪問の中で，文晁が残した仏像類の画は，次のとおりである。

（1）興福寺燈臺鬼形〈天燈／龍燈〉
（2）東大寺戒壇堂所安置／四天王〈傳為空海作〉
（3）元興寺五重塔内所安置薬師佛〈木像高五尺／有奇〉
元興寺所蔵廃佛〈傳曰上宮太子初建之時之像也〉
同観音堂本尊〈与長谷寺像同作〉
（4）興福寺東金堂中文殊大士・維摩居士
（5）正覚寺（紀寺）閻羅王
（6）極楽院上宮太子二歳像
（7）法華寺横笛堂有横笛尼像〈木〉
（8）尼辻地蔵〈在茶店／傍小堂〉
（9）勧修坊鎌倉源将軍頼朝卿所納上宮太子像
（10）長谷観音開扉図〈僧徒行道散華〉
（11）宝蔵院不動堂中安置古像寺僧／曰聖徳太子又曰天皇像

このうち，まず注目されるのは，（3）の元興寺五重塔に安置されていた薬師如来像(図1）である。これは，大きさ，印相，着衣・衣文の形式，あるいは左袖の下方にあらわれる特徴的な渦巻き文の類似から，現在も元興寺に伝来する薬師如来像（図2）を描いたものであることは，ほぼ間違いないと思われる。従来この像の伝来は不明とされてきたが，ここに，江戸時代後期には同寺五重塔に安置されていたことが判明した。元興寺において文晁の描いた仏像は，他の二体も含めて，いずれも精緻に描かれ，あるいは的確に様式的特徴をつかんでいるといえる。そのため，この画からだけでも二像のうちの前者は天平初期の金銅菩薩像の破損仏，後者は平安初期の木彫像と推定することができる。

また，（2）東大寺戒壇堂の四天王像（図3）や（4）興福寺東金堂の文殊菩薩（図4）・維摩居士像（図5）という今日でも著名な作例が描かれているのも興味深い。前者は略筆で描かれ，また各像の表情などはカリカチュア的なおかしみを備えている。即興的にスケッチされたものと思われる。後者は，簡潔な描写ながら着衣や台座などの特徴を的確に捉えている。両像と

図1

図2

図3－1

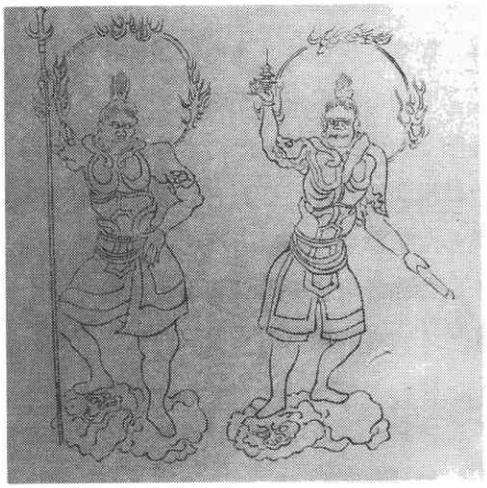


図3－2

も斜め向きに描かれたのは，立体としての特徴がこの向きで最も過不足無く伝えられることをよくわかっていての仕業であろう。誇張と省略の激しい（1）天燈鬼，龍燈鬼の例などもある。

これらの画は，実在の仏像を実際にスケッチしたことが知られるものとして，日本の美術史上希有な例に属するといえそうである。確かに，仏教美術の歴史の中で，実在の仏像を描いた絵というものは存在するが，それらはいずれもその像と特定できる図像的な特徴を備えていれば，それとして通用する類のもので，この例のように画家が像を前にして描いたことが保証されているものはない。やはり，画を記録の手段として最重要視した定信の古物集古事業という背景がなければ生まれなかった事例かもしれない。しかしながら，すでに述べたように，仏像はこの事業の対象ではなかった。本書において，わずかながらも仏像が記録されたのは，文晁の個性によるところが大きかったと思われる。例えば，「法隆寺五重塔塑像図」（名古屋市立博物館）（図6）のような作例がそれを証するであろう。文晁は，この大和巡りの中でのスケッチをもとに，このような本画を描こうという意志を持っていたのである。あるいは「清涼寺釈迦如来像」（桑名市・照源寺）（図7）を見たい。三国伝来の仏像として著名な京都清涼寺の釈迦

図4

図5

図6

図7

如来像を描くこと自体は，歴史的にしばしばおこなわれたことであった。しかしながら，本図は，像を正面と両側面からともに描いている点に，きわめて注目すべき描法を見せている。これは，今日の調査写真において同様の角度から仏像を撮影するのと同じ意識で描かれたものである。すなわち，仏像を複数の正対する位置から描き，立体物である仏像の情報を不足なく蓄えようという意識である。仏像を，過去の「美術」的遺産として見，それを写し残そうという意図がそこにあったとすれば，やはりこの個性を，近代的な仏像観の萌芽として位置づけるべきであろう。

3．森川竹窓の大和巡りと仏像

『大和巡画日記』中巻は，森川竹窓『大和日記』（天理図書館蔵）と内容を同じくするものであることはすでに述べたが，この両書の記述には一部にそれぞれ過不足があり，正確に一致するものではない。いずれも写本とすべきだが，現在乱丁はあるものの筆写の体裁が整っている天理図書巻本よりも，注記の書き込みなどが乱れている東北大学本の方がより原本に近いとの印象を生む。東北大学本の筆写年代は天保十二年（1841）とわかるので，天理図書巻本はそれに遅れる時期のものと推定される。

本書の著者，森川竹窓は谷文晁と同年の生まれで，篆書・隷書にすぐれた書家として知られている。古人の真跡の臨模に励み，文政二年（1819）に『集古浪華帖』を刊行したことでその名を不朽のものにした。文晁との関係も浅からぬものがあったようで，文晁の『畫学斎過眼圖藁』戊冊（注７）には，竹窓その人の面貌の写生画が残されている。

森川竹窓の大和巡りについては，寡聞にして他の資料の存在を知らないが，本書では，別表のとおり文化六年（1809）八月十八日から二十九日にかけてのこととなっている。本書中には，例えば東大寺大仏殿前銅燈籠の注記に「銘字拓摺ス　十種ニ出タレバ爰に略ス」とあり，あるいは若宮八幡宮の宝物への注記に「集古十種に出タリ」とあるように，『集古十種』を意識した記述が見られる。このことが，すでに刊行されていた『集古十種』を単に参考としたことを意味するに過ぎないのか，それとも，竹窓の大和巡りが定信の集古事業と関わりをもっていたことを意味するのかは，現段階ではあきらかではない。

いずれにしろ竹窓は，八日間の滞在の後，奈良を出立した。その後の歴訪地は，おおむね西国巡礼道に沿った寺院であるが，その途中に記される當麻寺への行路が不明確である。また，巻末に二十二日・二十三日の日付とともに記される法隆寺の項もその日のこととすると不自然さが残る。

本書の中にも，仏像は少なからず採録されており，そのうちのいくつかは図を伴っている（別表参照）。その中で最も興味をひくのは，薬師寺金堂の薬師三尊像のとり上げ方である。本像を古今の妙作として称揚しつつ，これを三韓仏あるいは天竺仏として位置づけている。これは，東大寺南大門の狛犬の項に注記されるように，日本の古制と思われるものも多くは三韓佛であるという竹窓の様式観に従うものであり，一種の拝外的な気分が見えなくもないが，逆に，これを示すことによって「日本風」を際だたせる

という目的もあるように思える。薬師像の図（図8）には特に台座中の人物への注目が記され，また台座の図（図9）の注記ではこれらの人物を「奇々妙々，全く皇朝の物にあらず」と評している。本像を三韓佛あるいは天竺佛とした根拠のひとつがこれであるのだろう。

また，取り上げられた仏像のうちに神将形の像が多い（法華堂像，新薬師寺像，西大寺像）ことも注目できよう。これは，新薬師寺像の注記に「此装束甲冑古代ノ製可考」とあるように，仏像それ自体への関心というよりは，古代の装束・甲冑の例としたいという意図を示していると思われる。この意識は，『集古十種』の項目中に「兵器類甲冑」があるのと共通し，竹窓の大和巡りの動機に，定信の「ふるきもの」への関心と共通するものがあることが伺える。

図8

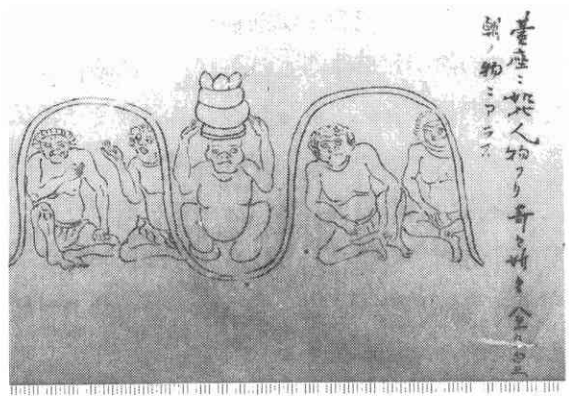


図9

「脱活乾漆造」と呼ばれる技法によって作られた法華堂の四天王像が，「張子佛」と称され，その技法が細かく注記されているのも興味深い。即物的な関心が，仏像にも寄せられていることを見て取れよう。

このように，『大和巡画日記』中巻においても，この時代特有の仏像への関心の寄せ方があらわれている。文晁のそれに見たような「仏像を記録する」というありようは希薄ではあるが，「本朝の故実の証拠」を集成するという『集古十種』と同じ意識が，ここにはある。その意識から仏像を取り上げた好例が，ここにあるように思えるのだ。

4．今後の課題―江戸から明治への仏像の転換

『大和巡画日記』に見た仏像の記録は，断片的なものではあるが，江戸時代後期の仏像への関わり方を興味深く伝えている。そののち，明治時代も二十年代を過ぎると，仏像は，国民国家「日本」が備えるにふさわしい「美術」を代表する分野に昇格する。特に奈良の仏像は，ギリシア彫刻にも劣らないというストーリーの中で称揚されはじめる（注8）。以後，仏像は様々な分野の人々がそれへの思いを語る対象として，その意味を増大させてゆくのである。

しかしながら，ひとびとの仏像へ関わり方が，明治維新を境にして，例えば礼拝から鑑賞へというように単純に転換したはずはない。その変化は，江戸時代にすでに萌していたのだろう。文晁にみた，客観的に仏像を記録するというすぐれて近代的なありようや，竹窓の「本朝の故実の証拠」としての仏像への接し方が，どのように明治時代へ流れ込み，近代の美術史を形成していったのかという点に興味をそそられる。『大和巡画日記』がそのための重要な素材となることを指摘しつつ，ひとまず稿を終えたい。

（ながおか　りゅうさく）

［注］

1）長岡由美子　資料紹介「大和巡画日記」（前・後）『美術史学』12・13　1990・1991年

2）谷文晁『文晁大和日記』　東京都中央図書館・加賀文庫蔵『衝有梅』第九冊所収　函架番号「加四三〇六」

3）東野治之「『古画類聚』の成立」　東京国立博物館編『古画類聚　調査研究報告書』　1990年3月
小林めぐみ「『集古十種』の編纂 ― その目的と情報収集」　福島県立博物館編『集古十種』展図録　2000年3月

4）張洋一「大和国名所絵図屏風」について　『堺市博物館報』16　1996年3月

5）『文晁過眼録』　『集古会志』辛亥巻三～　『集古』甲子一号

6）森銑三「谷文晁傳の研究」　『森銑三著作集』第三集　中央公論社　1971年

7）谷文晁『画学斎過眼図藁戊冊』　『美術研究』16　1933年4月

8）岡倉天心「日本美術史」（明治24年）　『岡倉天心全集』四　1980年8月　平凡社

【別表】『大和巡画日記』中巻内容一覧（関係分）

日　付	訪　問　地	関係作品	注　　記
8月18日	池田庄左右衛門宅		
19日	春日社		
	古梅園		
20日	東大寺		
	法華堂	四天王※	智證大師作ト云至テ古雅張子佛ナリ曰ク下地ヲ籠ニテコシラヘ紙ニテ張リ上ゲ子リニテヌリタルモノナリ 着色古色可摘
		千躰佛	ソノ餘古佛多シ
		大黒天※	俗オメコ大コクト称ス／木像也着色古雅
	四月堂		
	念仏堂		
	龍松院		
21日	大仏殿	盧舎那佛	蓮臺ノメクリニ佛像大小須弥山図等刻付アリ但シ是ハ再建ノ時代トミユ
	若宮八幡宮		
	南大門	二王	運慶作
		コマ犬※	唐物ト見エ古雅／制作可愛 凡此時代ニ高麗百済ヨリ渡来セシモノ多シと見ユ／日本古制ト云ヘルモ多クハ三韓佛ナリ日本風ニアラサル見ユ
	大湯屋		
	同院宝蔵		
	書院		
22日	興福寺中院		
	金堂		
	東金堂		
	五重塔		
	勧善院		
	南円堂前	古銅燈籠	
	新薬師寺	本尊丈六薬師	脇士日光月光同作
		塑像十二神※	運慶作ト云イカニモ古雅ニシテ見事ナルモノナリコハ実ノ物ナルヘシ 此装束甲冑図古代ノ製可考
	興福寺唐院		
23日	元興寺		
	五重塔		内ニ古佛ノ朽廃シタル多シ
	観音堂	本尊観音	道澄法師作ト云／髪際ニテ一丈三尺長谷寺ノト同佛

24日	西大寺		
	愛染堂		
	観音堂	銅像四天王※	甚見事ナルモノ也焼損シタル処ハ木ニテツキタリ足下ノ鬼古ノマヽナリ制作可愛
	方丈		宝物拝観
	唐招提寺		東堂ニテ拝見
	金堂		
	戒壇		
	開山堂		
	祠堂		
	講堂		
	食堂	丈六千手観音	日尺一丈二尺斗有
25日	薬師寺		
	鎮守八幡宮		
	三重塔		
	金堂	薬師佛※	銅像丈六天武天皇建立ト云壇ハ瑪瑙石ト云／此佛像古今ノ妙作ナリ銅色至テ古シ三韓佛ナルヘシ天竺佛ト云テモヨシ
		日光佛※	亦妙作也
		台座※	臺座ニ如此人物アリ奇々妙々全ク皇朝ノ物ニアラス
26日	在原寺		
	布留社		
	内山永久寺		
	真言堂		
	金剛院		
	本堂	丈六弥陀三尊	
27日	三輪		
28日	長谷寺	観音像	
	神武天皇陵		二丈六尺二寸再建
	當麻寺		
	奥院		
	達磨寺		
29日	安陪文殊		
	飛鳥神社		
	飛鳥寺	大佛	甚古物也面ハヌリ直セシトミユ／二丈五尺ノ坐像ナリ
	橘寺		
22日	法隆寺		
23日			七種宝物拝観
	金堂	薬師佛	
		釈迦佛	光背有銘
		弥陀佛	同　并に推古帝時造ルト云／古仏ハ賊ニトラレテ今在ハ再造ナリ

（※は図を伴うことを示す）

平成12年度東北大学附属図書館企画展の開催について

図書館では，本年も下記のとおり企画展を開催し，所蔵する貴重資料の一端をご覧いただきます。本年は，昨年の江戸時代初期の文化（17世紀）の続編として，「十八世紀江戸の文化」と題し，蘭学，戯作，浮世絵本に関連した資料を多数展示いたします。

また，本学言語文化部鈴木道男助教授による「江戸の博物熱」と題する記念講演会も併せて開催いたします。是非ご来場ください。

記

1．資料展示会

1）テ ー マ　「十八世紀 江戸の文化」
江戸時代中期，十八世紀における文化の展開を本学所蔵の蘭学関連資料，戯作本，浮世絵本等により紹介。

2）開催期間　平成12年11月２日（木）～11月10日（金）
10：00～17：00
（初日の一般公開は，14：00から　土，日，祝日も開催）

3）会　　場　東北大学附属図書館本館視聴覚室（仙台市青葉区川内）
＊入場無料

2．記念講演会

1）演　　題　「江戸の博物熱」
～西洋と比べてわかる江戸博物学のすがた～

2）講　　師　鈴木道男（東北大学言語文化部助教授）

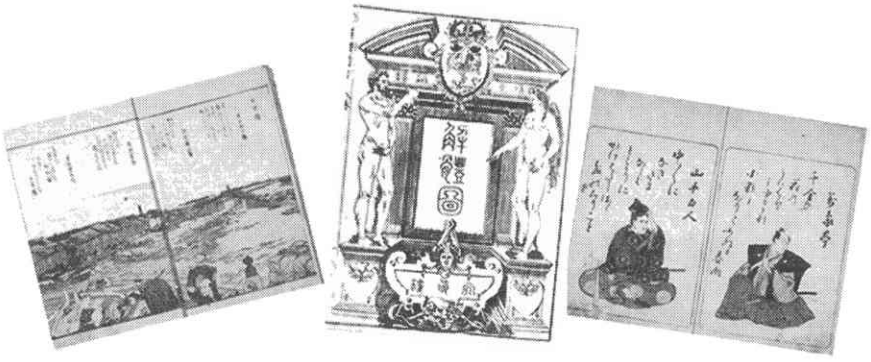
3）日　　時　平成12年11月２日（木）　15：00～16：30

4）会　　場　附属図書館本館２号館４階会議室
＊無料

3．問合せ・交通

1）問合せ先　東北大学附属図書館総務課庶務掛
電話　022-217-5911

2）交　　通　市営バス　宮教大，青葉台行　扇坂下車　徒歩３分
駐車場がありませんので，自家用車でのご来場はご遠慮ください。



貴重資料特別展を開催

附属図書館では，本学が主催した国際シンポジウム「21世紀の研究と教育に関する国際シンポジウム」の開催に伴い８月20日～22日の３日間貴重資料の特別展示会を開催しました。展示資料は，マルクスの自筆書き入れのある『哲学の貧困』やA.アインシュタインが土井晩翠に宛てた手紙等20点。いずれも興味深い資料が展示されたことから，３日間という短い開催期間にも関わらず，シンポジウム参加者や熱心な市民が多数見学に訪れました。また，同会場では，本学における資料デジタル化の取り組みを紹介するコーナーを設け，デジタルコレクションをスライドショーで紹介しました。

（情報サービス課）

第55回東北地区大学図書館協議会総会

第55回東北地区大学図書館協議会総会は，平成12年９月20日～21日の両日，宮城教育大学附属図書館を当番館として「仙台ガーデンパレス」（仙台市）を会場に，加盟館から46館81名の参加を得て開催された。

総会における主な協議事項並びに各部会での協議事項は以下のとおりである。

(1)　災害時の協力体制について

(2)　学位論文の複写取り扱いについて

(3)　第56回総会の当番地区（館）について

(4)　合同研修会の予定地区について

①　平成12年度の合同研修会について

②　平成13年度以降の合同研修会当番地区について

次回総会は，奥羽大学図書館が当番館として開催することとなった。

（総務課）

平成11年度参考図書購入報告

参考図書費（文部省参考図書購入費，本学共通経費，川内地区部間共通費等）により平成11年度に購入し，本館レファレンス・コーナーに配置した参考図書のうち主な資料を下記のとおりお知らせします。

（情報管理課）

◆和　漢　書◆

1．CD-HIASK　1999
2．学会年報・研究報告論文総覧
3．郷土史事典
4．近代日本女性文献資料総覧

5．現行法令　CD-ROM　2000
6．古代地名大辞典
7．人物レファレンス事典
8．日本古典文学大事典
9．日本紳士録　1998
10．日本経済新聞　CD-ROM 版　1999

◆洋　　書◆

1．American book publishing record. 1998
2．American national biography.
3．American universities and colleges. 15th ed.
4．Encyclopedia Americana. 1998 Windows/MPC Version 4.00.
5．Encyclopedia of political economy.（vol.1,2）
6．Encyclopedia of violence, peace and conflict.（vol.1,2,3）
7．MLA International Bibliograhy. CD-ROM 2000
8．Social Sciences Citation Index with Abstracts. CD-ROM 1999
9．Subject guide to books in print. 1999-2000.
10．Verzeichnis lieferbarer Bucher. 1999/2000

◆その他主な継続受入資料◆

1．ダイヤモンド会社職員録　2000
2．会社年鑑　2000
3．日本文学研究文献要覧　現代日本文学　1990 1994
4．全国総書目
5．日本書籍総目録　1999
6．Commonwealth universities yearbook. 1999
7．Comprehensive dissertation index. Supplement 1998.
8．The Europa world year book. 1999
9．Who's who in America. 54th ed.

平成11年度特別図書購入報告

特別図書購入費（文部省配分）によって下記資料を購入し，本館に備え付けましたのでご利用ください。

（情報管理課）

番号	資料名	内容	出版形態
1	雑誌「文章世界」	明治から大正期に至る日本文学の動向を知る上で貴重この上ない，近代文学研究に不可欠の資料	マイクロフイッシュ
2	北京図書館編「文淵閣四庫全書補遺－據文津閣四庫全書補」	従来から出版されている「文淵閣四庫全書」は疎漏の多い版本であり，これを補うために編纂されたもので厳密な史料批判に基づく精緻な実証的研究には欠かすことのできない必備の重要典籍	図書

3	日系移民資料集　南米編　第11～20巻	明治時代から昭和戦前期にかけて刊行された南米移民に関する主要な書目の復刻	図　　書
4	明清民間秘密宗教経巻文献	明清時期に盛行した教門による経巻文献と民間に流布した善書や救劫経書を重点に収録し，また「玉匣記」など経巻文献に関連する文献も付録として収録	図　　書
5	Indonesian Imprints. 1942-1945（日本占領期のインドネシア文献コレクション）	日本占領時の1942-1945年の間に，インドネシアで刊行された文献コレクション	マイクロフイッシュ
6	The Times. Higher Education Supplement.（タイムス．高等教育に関する資料）	高等教育全般に関する情報を収集した資料	マイクロフイルム
7	アメリカ合衆国対日政策文書集成　第Ⅳ，Ⅴ期	アメリカ合衆国国務省が所蔵する日米関係文書から，日米外交防衛問題を編纂した資料	図　　書
8	塙浩著作集　第Ⅱ期　第12 15巻	フランス法制史研究の第一人者である著者の論考・史料集。学術的価値が極めて高いだけでなく，広くヨーロッパの歴史・文化に関する研究の上でも必要欠くべからざる重要文献	図　　書
9	日本貿易年表　大正２年～昭和12年	大蔵省が毎年出している外国貿易に関する基本的な統計資料のマイクロ版	マイクロフイルム
10	La Révolution et l'Empire: vus par les historiens français du XIXème siècle（帝政と革命）	フランス革命から第一帝政までを19世紀の歴史家が分析したフランス社会経済史に関するテキスト約10万頁分を収録	CD-ROM
11	Development: Critical Concepts in the Social Sciences. 6vols.（開発研究）	過去20年間にわたる開発経済学関係で発表された優れた論文を収録	図　　書
12	ペリー艦隊日本遠征記	ペリー提督が合衆国議会に提出した報告書「アメリカ艦隊による中国海域および日本への遠征記」の全訳	図　　書
13	The Arguments of the Philosophers. A set. 1-6（哲学者論評）	ギリシア・ローマの哲学者・思想家（ソクラテス，プラトン，アリストテレス，アウグスチヌス等）の哲学・思想を体系的に論評した資料	図　　書
14	Early English Books. STC2. Unit. 106-108（近世初期英語印刷文献集成）	清教徒革命から王政復古にいたる期間の英国初期刊本を集成したもの	マイクロフイルム
15	Parliamentary Debates（Hansard）House of Commons. 6th ser. Vols.311-315（英国議会下院議事録）	英国議会下院における会期ごとの議員の発言・討論を逐語的に収録したもの	図　　書

会　　議

◎学　　内

12．7．7　図書館の将来構想推進に関する検討委員会

〃　　平成12年度第1回分館長会議

○協議事項

(1)　平成12年度図書館資料費の配分額（案）について

(2)　商議会の開催について

○報告事項

(1)　平成12年度図書館運営費（共通経費）について

(2)　平成13年度概算要求について

(3)　奨学寄付金の受け入れについて

(4)　東北大学教育研究協力基金事業について

(5)　平成12年度東北大学附属図書館企画展について

(6)　国立大学図書館協議会関連について

(7)　有川九州大学附属図書館長の講演について

(8)　川内地区図書委員会について

(9)　各分館からの報告

(10)　その他

①　次期電算機システムの導入進捗状況について

②　国際シンポジウムへの協力について

12．7.12　平成12年度第1回附属図書館商議会

○協議事項

(1)　総長補佐体制の強化に伴う附属図書館の体制について

(2)　情報シナジーセンターの新設（平成13年度概算要求）への対応について

(3)　東北大学附属図書館の将来構想推進に関する検討委員会について

(4)　平成12年度二次情報データベース・サービスの所要経費について

(5)　本館における書庫利用の拡大について

○報告事項

(1)　平成12年度図書館運営費（共通経費）について

(2)　平成12年度図書館資料費の配分額について

(3)　平成13年度概算要求について

(4)　奨学寄付金の受け入れについて

(5)　東北大学教育研究協力基金事業について

(6)　平成12年度東北大学附属図書館企画展について

(7)　国立大学図書館協議会関連について

(8)　有川九州大学附属図書館長の講演について

(9)　川内地区図書委員会について

(10)　各分館からの報告

(11)　その他

①　次期電算機システムの導入進捗状況について

②　国際シンポジウムへの協力について

12．7.24　平成12年度第2回川内地区図書委員会

12．7.31　平成12年度第1回収書委員会

12．9．8　平成12年度第2回分館長会議

○協議事項

(1)　商議会の開催について

○報告事項

(1)　本館の利用状況について

(2)　エルゼビア・サイエンス社からの回答について

(3)　平成13年度外国雑誌の契約方針について

(4)　丸善株式会社の事業名「東北大学附属図書館所蔵狩野文庫の単品複写サービス」の取り扱いについて

(5)　各分館からの報告

(6)　その他

①　貴重資料特別展の開催について

②　平成12年度東北大学附属図書館企画展の実施について

12．9．8　平成12年度第2回附属図書館商議会

○協議事項

(1)　「東北大学附属図書館規程」の一部改正について

(2) 「東北大学附属図書館商議会規程」の一部改正について
(3) 附属図書館商議会議事要録の行政機関の保有する情報の公開に関する法律への対応について

○報告事項
(1) 本館の利用状況について
(2) エルゼビア・サイエンス社からの回答について
(3) 平成13年度外国雑誌の契約方針について
(4) 丸善株式会社の事業名「東北大学附属図書館所蔵狩野文庫の単品複写サービス」の取り扱いについて
(5) 各分館からの報告
(6) その他
① 貴重資料特別展の開催について
② 平成12年度東北大学附属図書館企画展の実施について

12. 9.25 平成12年度第2回収書委員会

◎学　外

12. 9.20～21 第55回東北地区大学図書館協議会 (於：仙台ガーデンパレス)

編　集　後　記

夏の盛りに汗を拭きながら編集作業をすすめていましたが，もう今は秋。
夕暮時になると図書館の周辺から，金木犀の甘い香りがただよってくる季節となりました。

その間，図書館では「21世紀の研究と教育に関する国際シンポジウム」に呼応して貴重書特別展や有川九州大学附属図書館長の特別講演会の開催，大島文部大臣の来館等めまぐるしい動きがありました。又，サービス部門でも午後7時までの書庫利用の拡大という前向きの変化がありました。

常に動いている図書館にあって現在の広報活動の在り方や編集スタイルも，再考する時期を迎えているのかもしれません。図書館員の方々に「投稿してみたい！」と思っていただけるような生き生きとした館報作りを目指して編集委員一同頑張っておりますので，ご意見をお寄せ下さるようお願いします。 (湯本)

東北大学附属図書館報「木這子」 第25巻第2号（通巻91号）発行日 平成12年9月30日
発 行 人 濟賀 宣昭 広報委員長 東 高明
発 行 所 東北大学附属図書館 仙台市青葉区川内 電話 022-217-5911，FAX 022-217-5909
URL http://www.library.tohoku.ac.jp/